

逍遙館長のところ

「それぞれの絆、の ところ」

3月10日 逍遙^{逍遙}

今日3月10日は、坂本龍馬が、約2ヶ月前の1月24日未明、京都・寺田屋で伏見奉行所捕り方の襲撃を受け、お龍の命がけの機転で切り抜けたものの、深手を負ったため、西郷や小松らの薦めで、湯治療養を兼ねて、妻のお龍とともに薩摩入りした日です。（日本最初の新婚旅行とも言われています。）龍馬は、この襲撃の数日前、京都での薩長同盟締結にも立ち会っていました。

そんな龍馬には、一方で素朴な家庭人としての一面もあったようで、例えば、薩長同盟締結を目前に控え、自分の身に危険が迫っていることを察した龍馬が、年頃の姪・春猪に宛てた遺書代わりの手紙で、からかいつつも結びは「露の命いはかられず。先々御ぶじでをくらしよ」と切ない心情を吐露したくんだりや、お龍同伴での霧島滞在の様子を姉の乙女に手紙で楽しく伝えたくだりなど。

その龍馬も、その僅か約1年半後の翌年11月15日、まさに龍馬33歳の誕生日に、京都・近江屋で暗殺。龍馬自身の手紙の言葉通りの最期でした。
〔現在、黎明館企画展「あの人の家族への手紙 幕末維新」を開催中〕

◎ 次回の予定 「令和の御楼門復元完成 もう間近か、の ところ」

